



おかやまマラソンのメダル製作に取り組む吉備ワークホーム、せとうち旭川荘の利用者(3面に関連記事)



CONTENTS

- P2 わかば寮建て替え 起工式実施
- P4-5 祭り&収穫 秋を満喫
- P6 カレッジで卒業生の話を聞く会
- P7 巨大松ぼっくりでXmasツリー
- P8 ノウフクマルシェ 3年ぶりに開催

# 旭川荘 だより

vol.  
270

2022.11.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘  
〒703-8555 岡山市北区祇園866  
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640  
<https://www.asahigawasou.or.jp>



荘内3施設の作品も展示された  
「障害のある人のアートギャラリー」(6面に関連記事)





## 日中国交正常化50年と旭川荘

理事長 末光 茂

本年9月29日は、日中国交正常化50年の記念日でした。本来であれば、両国で祝賀ムードが盛り上がるはずが、国際情勢の緊張の高まりに、新型コロナの蔓延等も加わり、控えめでした。

そのような中、9月25日、岡山県華僑・華人総会主催の「西日本地区日中国交正常化50周年慶祝大会」が開催されました。その席で、川崎祐宣先生の貢献の紹介とともに江草安彦先生への表彰状が、長男の江草明彦氏(山陽新聞社会事業団専務理事)に手渡されました。

川崎先生については、内山完造氏や岡崎嘉平太氏の紹介の後、国交が回復していない1956年に訪中し、毛沢東主席と会見したことが紹介されました。その後、川崎先生は日中友好病院建設への支援をはじめ、医療関係者の研修を絶えることなく続け、北京第2医学院(現:首都医科大学)や上海職工医学院(現:上海健康医学院)そして上

海中医学院(現:上海中醫藥大學)等からの研修生は171人に及びます。

江草先生は、川崎先生の求めを受けて、福祉分野の支援を担い、ひとりっ子政策下で高齢化が進む中国の介護教員の養成事業や教科書の出版により、その分野の人材育成と普及に先導的役割を果たされました。その他、「福祉の翼」訪中団では1990年から20回、障害児者を含む延べ2,215人が中国を訪問。「津山国際交流車いす駅伝競走大会」では中国はじめ韓国、タイ、マレーシア、フィリピン、ネパールなどから選手団を17年間で775人迎え入れ、アジアの国々相互の交流にも大きく貢献されました。

お二人は、国レベルでの難しい状況下でも、このような時の友情こそが真の友情であると、市民レベルでの交流に尽くされました。その心を受け継ぎ、互いに手を取り合い、友好の火を灯し続けましょう。

## わかば寮建て替え工事 起工式実施 かえで寮利用者受け入れへ 3年計画で一体的に整備

建設から60年以上を経て老朽化が進む、わかば寮の建て替え工事(1期工事)の起工式が8月30日、ひらた旭川荘で行われました。本年度から3年計画で居住棟、事務室が入る管理棟など4棟を順次建設。新設の居住棟には隣接するかえで寮の利用者も受け入れ、一体的に整備を進めます。

起工式には旭川荘の役職員、工事関係者、地元町内会など関係者約40人が出席。神事で末光茂理事長が鍬入れを行い、施主、施行会社の代表が玉串を捧げて工事の安全を祈願しました。

続いてあいさつに立った末光理事長は、ひらたの地に昭和35年に開設された知的障害者入所施設・県立備南荘や、後に旭川荘に移譲された県立総合社会福祉センターの成り立ちについて紹介。「先人から託された使命を再確認し、本当に困っている人のために積極的にチャレンジ

する拠点としてのわかば寮に生まれ変わる。その覚悟をもって今後の建て替え工事に臨みたい」と述べました。

1期工事では、わかば寮北側のグラウンドに男性居住棟(鉄骨2階建て、延べ床面積約1,027㎡)を建設するとともに、日中活動棟の解体工事なども進めます。来年度は女性居住棟(平屋)と管理棟(平屋)、再来年度は2階に多目的ホールと活動室などを備えた男性居住棟(一部2階建て)および地域活動支援センター(管理棟に併設)の工事に着手。全居住棟とも利用者の高齢化、重度化に対応するため、バリアフリー仕様のユニット型に設計し、2階スペースは水害など災害時の避難場所としての活用も見込んでいます。



関係者が工事の安全を祈願した起工式



起工式で鍬入れをする末光理事長



## メダル製作 荘内5施設で作業 3年ぶりおかやまマラソン開催へ

11月13日に岡山市内で行われる「おかやまマラソン2022」に向けて、旭川荘の就労系5施設の利用者が、完走者らに贈られるメダル製作の請負作業に取り組んでいます。新型コロナの影響で昨年、一昨年の大会は中止となり、3年ぶりの開催。利用者は「久々のおかやまマラソン。選手や関係者に喜んでほしい」と心を込めて製作にあたっています。

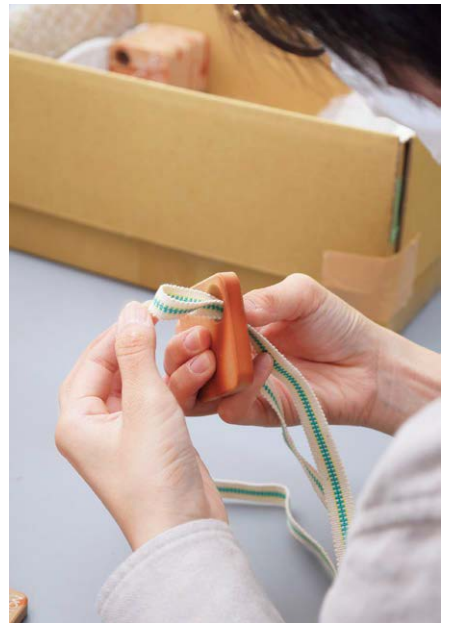
完走メダルは2015年の第1回大会から、若手作家が製作した備前焼のメダル本体に、首にかける部分は倉敷市児島地区の伝統産品・真田紐を使用。毎回、県内の障害者就労支援施設がメダルに紐を付け、包装する作業を担っていて、今回も岡山県セルフセンターを通して1万2,000個の製作を県内約20施設で分担しています。

2017年の大会から作業を請け負うせとうち旭川荘では、完走メダル500個分の製作を3人の利用者が担当。紐付けを済ませた後、メダル本体を台紙とともにビニール袋に入れ、傾きを調整しながら丁寧にテープで止めていきます。利用者の大倉美香さんは「久しぶりにメダル製作の仕事ができて嬉しい。選手の皆さんにはぜひ頑張ってもらいたい」と笑顔で語ります。

当初からメダル製作に関わる吉備ワークホームでは、台紙の印刷に



紐付けしたメダルを包装する利用者  
=せとうち旭川荘



紐がよれないよう向きを調整しながら作業をすすめる  
=吉備ワークホーム

## 法人採用パンフ改訂

旭川荘の新職員採用パンフレット「旭川荘採用案内」を、2023年春の職員採用に合わせて9月にリニューアルしました。このパンフレットは2020年5月に福祉分野への就職を目指す人たちに旭川荘で働く魅力をPRしようと作成し、今回が初の大幅改訂となります。

改訂版では、初版に掲載した「先輩職員」とは異なる職場で働く若手や管理職、特定地域採用の職員など4人のインタビューを掲載。それぞれの立場から旭川荘で仕事をする中で感じる思いや、就職を考えている人のへエールなどを伝えています。今回、特に管理職を紹介することで、長く旭川荘で働くイメージを持ってもらえるよう工夫をしています。

また、パンフレットのテーマカラーも前回のグリーンから温かみのあるオレンジに変更。施設数や職員数、有給休暇取得率などのデータを更新し、出生時育児休業(産後パパ育児)など10月から新設された制度についても追加しています。

A4判、20ページ、オールカラー。1,500部作製。事務局人事班の協力のもと、企画広報室が取材、編集しました。希望者に配布しています。問い合わせは人事班まで。



改訂版の採用パンフレット



# 祭り&収穫 秋を満喫



新型コロナ禍の3年目を迎えた今秋、旭川荘の各施設では感染対策を講じながら徐々にイベントが復活しています。9月、10月に行われた「秋祭り」と「芋掘り」を紹介します。

## リモート配信で家族が見学 いんべ通園センター ふれあい祭り

いんべ通園センターでは9月17日に「第21回ふれあい祭り」を開催しました。

昨年に続き、今年もコロナ禍ということで地域の皆様やご家族をお招きしての大々なお祭りは中止し、ご利用者・職員に参加を限定しての開催となりました。

今年のお祭りでは、歌やダンス、「水鉄砲的当て」「魚釣り」「缶運び」「ボール飛ばし的当て」の4種目のゲーム、昼食のお弁当と食後のパフェなど色々な「お楽しみ」が準備され、一日を通して楽しいひと時を過ごすことができました。

お祭りの様子はご家族にもリモート中継され、ご家庭からご利用者の頑張りがや楽しむ姿を見ていただきました。

また、家族会からは参加者全員に参加賞が、さらに各



各種ゲームで上位入賞のお菓子をもらって喜ぶご利用者（左）

真剣な表情で缶運びゲームに挑戦しました

種ゲーム4種目の総合得点上位3人の方にはお菓子の詰め合わせが贈られ、一人一人の頑張りを労っていただきました。

来年こそはコロナが終息に向かい、地域の皆様やご家族と一緒に参加できるお祭りが復活することを願っています。

(いんべ通園センター 藤井哲)

## 利用者待ちに待った開催 せとうち旭川荘 せとあさ秋まつり



せとうち旭川荘ではコロナ禍で2年続けて中止となっていた秋まつりを10月15日に開催しました。なお、新型コロナウイルス感染対策として、ご家族や地域の方も参加する例年の“せとうちふれあいまつり”程の規模での開催は見送り、今回は「せとあさ秋まつり」として生活班と就労班の参加時間を2部に分けて小規模開催としました。

小規模とはいえ、まつりはまつり!10月初旬に参加案内を出すと、利用者の皆さんから「今年はあるで」や「久しぶりじゃの」など、まつりを楽しみにする声がたくさん聞かれました。当日は水射的や魚(疑似)釣り、玉入れなどのゲームに熱中し、「そこそこ!」や「こっちで!」など、まつ

りを楽しむ歓声がいたるところから沸き起こりました。そして、せとあさのまつりといえば餅(お菓子)投げ!皆さん定位置につくと、手を大きく広げて「こっちに投げて!」とアピール。終始、笑顔の絶えないおまつりとなりました。

(せとうち旭川荘 玉谷大)



的に狙いを定める利用者

利用者の歓声が飛び交う餅投げ会場

## 利用者・家族の笑顔あふれる 真庭地域センター 湯原うつぎまつり



旭川荘真庭地域センターでは10月1日、2年続けて実施できなかった「湯原うつぎまつり」を開催しました。新型コロナウイルス感染の防止に努めながら、利用者のご家族、職員のみで行いました。

会場には焼き鳥や綿菓子、フランクフルトなどの屋台や、ヨーヨー釣りにストラックアウト、射的、ガラポン抽選会などのお楽しみコーナー、利用者が手がけた製品や荘内施設の製品を集めた物販コーナーを設置。カラフルな法被を着た家族会の皆さんと職員が祭りの雰囲気盛り上げました。また、当センターの各事業の写真や、日々の活動の様子の動画が観られるブースを設置し、鑑賞していただきました。

ご家族からは「普段の活動を知ることができて良かった」「子どもと一緒に祭りの雰囲気を味わい、ゆっくりと過ご

すことができた」といった声をいただき、秋晴れの一日を利用者・ご家族・職員ともに楽しむことができました。今までの祭りのように地域へ向けて、地域の方との交流の機会をもつことはできませんでしたが、小規模ながら笑顔あふれる一日となりました。

(旭川荘真庭地域センター 山口昌美)



ヨーヨー釣りを楽しむ利用者

ストラックアウトに挑戦。お手製の補助器具を使って的に向かってボールを転がす利用者



## 職員がおもてなし かわかみ療護園 かつこう花祭



かわかみ療護園で10月12日、「かつこう花祭」を開催しました。今年のテーマは「あでやか」。音楽講師の三村真利子先生のご協力を得て、利用者、職員全員でギターや電子ピアノ、マラカス、太鼓などを鳴らしながら「風になりた



昼食の屋台メニューを買い求める利用者たち

なりたいたい」を歌い、にぎやかにスタートしました。

イベントとして、男性職員による演武やダンス、地域の方からいただいた大きなかぼちゃ

の重さあて、福引き大会、リンゴの皮むきや早食い大会をしました。昼食時には職員が盛装し利用者を「おもてなし」。普段は見られない職員の「あでやかな」姿に利用者のテンションが上がり、笑顔いっぱいの一日になりました。



オープニングで演奏をする職員と利用者

(かわかみ療護園 川本真弓)

## 松山ワーク&望の丘ワーク作業連携 さつま芋収穫

松山ワークセンターと望の丘ワークセンターが統合して3年目を迎えています。新型コロナウイルス感染拡大防止対策もあり、積極的な連携・交流が来ていませんでしたが、対策を行いつつ徐々に連携を深めています。

10月6日は、望の丘ワークセンターの畑で「さつま芋収穫作業」を行いました。松山ワークセンターから参加を希望した利用者3人が望の丘ワークセンターの利用者6人と共同で約600キロのさつま芋を収穫。芋を傷つけないよう道具を使わず、声を掛け合いながら手作業で掘り起こしました。

この他にも、葉ボタンの苗を共同で栽培、マンション



丁寧に手作業で収穫された立派なさつま芋



収穫に参加した利用者たち

清掃やぶどう選果場での仕事を共同受注もしています。コロナ禍ではありますが、注文も増えてきており、互いに協力して工賃アップとやりがいアップを目指して仕事をしています。

(望の丘ワークセンター 宮崎暁弘)

## 芋掘りで交流 三世代交流センター結びの杜

三世代交流センター結びの杜ホーム南側の畑で10月13日、秋晴れの中、旭川荘厚生専門学院とカレッジ旭川荘の学生、職員に地域の幼稚園の園児なども加わり芋掘りをしました。グループホームよしい川の利用者が見学し、総勢約70人の参加となりました。

このさつま芋は春に同じメンバーで植えたもので、畑を管理している株式会社トモニー・きずなが除草や水やりなどをして育てていました。

芋掘りの参加者たちは軍手をはめてスコップを持ち、芋づるを頼りに土を掘り、お目当ての芋をゲット。「これ芋天にする」と張り切って収穫していました。子どもたちは悪戦苦闘しながらも、先生や学院生の「おにいちゃん」「おねえちゃん」に助けをもらいながら自分の顔よりも大きな芋を掘り出し「見てー!」とアピール。見学に来ていたグループホームの利用者たちも「大きな芋がとれよなあ」



掘りたての芋を見せてもらうグループホームの利用者



協力して芋を掘り出す参加者たち

と笑みを浮かべながら応援し、掘りたての芋を手元に記念撮影をするなど楽しんでいました。

とれた芋は1人2本ずつお土産に持ち帰り、残りは結びの杜ホームで利用者に振る舞われるほか、トモニーが焼き芋などにして販売する予定です。



ブルーシートいっぱいに集められた芋



## 荘内3施設 利用者の力作並ぶ 障害のある人のアートギャラリー

岡山県主催の「障害のある人のアートギャラリー」が9月6日から16日まで、県生涯学習センター（岡山市北区伊島町）で開催され、旭川荘のデイセンターあかしや、かえで寮、いんべ通園センターの利用者の作品が展示されました。

このアート展は、多くの人に障害のある人の個性豊かな作品の魅力に触れてもらい、障害への理解を深めるとともに、障害のある人の創作意欲向上を図る目的で県庁1階で行われていましたが、庁舎の工事に伴い県生涯学習センターで開催されました。

会場には旭川荘の3施設32点を含む計42点の作品が施設紹介パネルと合わせて並べられました。点字を打った紙にカラフルな絵の具で大胆に色を付けたものや、フウの木の落ち葉に絵の具を塗ってスタンプのように使い木を表現した絵画など、彩りも鮮やかな工夫を凝らした作品が目を引きました。

利用者と見学に行ったデイセンターあかしや生活支援員の太田賢太郎さんは「利用者さんは自分の作品が並んでいるのを見て、指をさして喜んでいました。新しい展示会場だったので、これまで作品を見たことのない人に知ってもらえる良い機会になりました」と話します。



個性あふれる作品が展示された会場

## 卒業生のお話を聞く会開催 カレッジ旭川荘

知的障害や発達障害のある若者たちが学ぶカレッジ旭川荘で10月8日、「卒業生のお話を聞く会」が初めて開催され、一般企業などで働く先輩たちがカレッジ生らを前に、仕事への向き合い方や職場の雰囲気、将来の夢などについて語りました。

社会人となった卒業生らの生の声を聞くことで、将来の就職に不安を抱えるカレッジ生や保護者に安心してもらうとともに、卒業生にも人前で話す経験を通して、さらに自信をつけてもらおうと企画。昨年春に卒業した1期生5人をはじめ、教職員や在校生、保護者ら約80人が参加しました。

卒業生の自己紹介に続き、事前に用意した質問に各人が答える一問一答方式で進行。仕事でやりがいを感じることに、「褒めてもらった時が一番嬉しい」「仕事をして感謝された時」「少しずつ新しい仕事を任されること」などと答え、働くうえで大切なこととして、挨拶や身だしなみ、報連相を挙げていました。また「職場の人間関係」について「厳しいけれど優しい上司。同僚とも仲がいい」「困ったことがあれば、その都度上司や先輩に相談している」など、周囲と良好な関係を築いている様子が報告されました。

さらに自身の将来の夢について「先輩と同じように長く働き続けたい」「家を出て一人暮らしをするなど、本格的に自立できるようになりたい」などと発言。

後輩に向けて「カレッジで学ぶことは全部無駄じゃない。就職した今、やってよかったと思えるので頑張してほしい」とエールを送りました。

このほか卒業生の保護者4人も登壇。在校生と保護者に向けて、自らの経験を交えながら「人生は長いので、間違えたらやり直せばいい」「成功も失敗も財産。カレッジの先生はどうすればできるようになるか、きっとヒントをくれる」「必ず就職先はある。先生を信じて悔いのない4年間を過ごして」「信頼できる大人(先生)に出会えたのは大きな財産。続けて通ってほしい」と語りました。



カレッジの後輩を前に自らの仕事について語る卒業生たち



## 巨大松ぼっくりのXmas ツリー完成 竜ノ口寮

竜ノ口寮の玄関にこのほど、巨大な松ぼっくりを使った大きなクリスマスツリーがお目見えしました。ボリューム感のある松ぼっくりをびっしりと組み上げたツリーは圧倒的な存在感を放ち、利用者や面会に来た家族等を驚かせています。

ツリーは竜ノ口寮周辺に落ちているスラッシュマツの松ぼっくりを使って「何かできないか」と考えられたもので、8月に開催した「まつぼっくりアートコンテスト(※)」と合わせて今春に企画、製作をすすめていました。高さは約2.5m。松ぼっくり372個を使用しています。円すい形のスチールスタンドの周りに園芸用の支柱とネットで土台を作り、利用者と職員が相談しながら針金で松ぼっくりを1個1個隙間なく固定しました。ツリーの形が出来上がったところで玄関に移動し、てっぺんに光る星、側面には緑やピンクの球体の飾りとイルミネーションライトを配置。仕上げは利用者が職員手作りのプレゼント型のオーナメントを飾り付け、クリスマスツリーらしく彩りました。

面会に訪れたご家族の中にはツリーの大きさと迫力に思わず二度見する人も。「どうやって作ったの?」や

「松ぼっくり何個使っとん?」と自然と会話が弾みます。竹本雅美副寮長は「皆の注目を集める竜ノ口寮らしいツリーができた。クリスマスに向けて利用者に飾りを作ってもらい、より個性あふれるツリーにできれば」と話します。クリスマス以降も、行事に合った飾り付けをして季節を感じられるものとして活用する予定です。

※旭川荘だより269号7面参照



ツリーにオーナメントを飾り付ける利用者と職員



玄関で目を引く完成したツリー。脚立に上らないと手が届かないほど高い

## リレーコラム

### 我が家の夏のハプニング

1年半前に4才になる犬を引き取りました。20数年ぶりに犬のいる生活が始まったわけですが、元々犬が大好きな私にとっては癒しでもあり楽しい毎日。お互い今の生活に慣れ、大事な家族の一員となっています。

住んでいる街の花火大会と一緒に楽しもうと、家族で外へ出たこの夏の休日のこと。一発目の花火が上がった瞬間、びっくりした愛犬は大興奮。つけていた首輪とハーネスを器用にすり抜け、猛ダッシュで逃げてしまったのです。追いかけたものの、瞬発力の衰えている私が到底かなうはずもなく……休日は丸一日、平日も日の出とともに出勤時間まで、また仕事を終えた後も搜索しましたが行方不明のままでした。

途方に暮れた私は、Twitterをフォローしている総社市の片岡聡一市長さんに依頼し迷い犬のチラシをTwitterで拡散していただきました。すると顔も知らない人たちが

ら目撃情報や多くの励ましの言葉が私のところに届きました。そして、愛犬は目撃情報が上がっていた近くの公共施設裏で、暑い中耐え忍んでいたところを職員さんを見つけ保護してくださり、5日後、無事に帰ってきました。

今回SNSを活用し、たくさんの人とコミュニケーションを取りました。怖さもあったのですが、心温まる言葉や行動にあふれていました。顔の見えないコミュニケーション方法。悪い部分がクローズアップされがちですが、多くの人々のやさしさに触れた夏の出来事でした。

(広報委員 後藤友美)





## ライオンズクラブよりタオル寄贈

岡山京山ライオンズクラブ(LC)など6団体から10月14日、タオルを3,840枚寄贈していただきました。今回で15回目となります。

タオルの寄贈は2009年に岡山ひかりLCが始め、2回目以降は岡山操山LC、岡山京山LC、岡山中央LCも参加。2006年からは岡山せとうちLC、昨年からはおかやまMOMO LCも加わり6LCで行われています。

贈呈式は旭川荘資料館で開催され、各LCの代表者8人が出席し、末光理事長に目録を手渡しました。末光理事長は「毎年心のこもったタオルを贈って下さりありがとうございます。皆様のお気持ちを大切にさせていただきます」とお礼を述べました。

いただいたタオルは本部のある祇園地区をはじめ、ひらた、備前、備中、愛媛支部の21施設に配布し使用させていただきます。



末光理事長(右から4人目)にタオルを贈るLCの皆さん

## 旭川荘理事会・評議員会報告

令和4年度第2回理事会を10月17日、第2回評議員会を同26日、いずれもホテルグランヴィア岡山(岡山市北区駅元町)で開催しました。

第2回理事会では、令和4年度主要事業の状況、令和4年度第1次資金収支補正予算、諸規程の一部改正、令和4年度第2回評議員会招集の議案について審議され、原案どおり承認されました。理事長及び業務執行理事の業務執行状況について、各理事より報告が行われました。

また、第2回評議員会でも、理事会と同様の議案について審議され、原案どおり承認されました。



## ノウフクマルシェ 3年ぶりに開催 荘内6施設が出店

岡山県内の障害者施設で作られた農作物や農産加工品を販売する「ノウフクマルシェ」(主催:岡山県)が10月22、23日の2日間、JR岡山駅前で行われ、旭川荘から6施設が参加しました。同マルシェは新型コロナの影響で2年続けて中止になっており、2019年秋以来3年ぶり。各施設にとっては待ちに待ったイベント開催となりました。

障害のある人の農業への取り組み「農福連携」を後押ししようと、岡山県が2016年秋から年2回開催。会場の東口駅前広場には、社会福祉法人やNPOなど約20団体が出店するテントが並び、障害のある人たちや高校生らのステージ発表も行われました。

旭川荘のテントでは、吉備ワークホムのイノシン革製品や木製岡山県地図パズル、松山ワークセンターとわかば寮が製造したクッキーやマドレーヌなどを販売。あおばの利用者が作った干支の置物、真庭地域センターの木製クリスマスツリーといった季節商品も並び、買い物客の注目を集めました。また、初日のオープンに合わせて、望の丘ワークセンターから新鮮なキャベツやリンゴ、新高梨などが会場に届けられると、テント前を通りかかった人たちが次々と購入していました。



各施設の利用者が作った数々の製品



新鮮な野菜や果物も到着。テント前に並んで買い求める人たち

## 編集後記

木々も赤や黄色に色づき、すっかり秋の風景となりました。施設の花壇の花を植え替えて、秋の彩りを楽しんでいただかなくては!と腕まくりをして張りきるこの頃…利用者さんと土をいじって過ごす時間は、毎回笑顔あふれるひと時です。

今年度より広報委員となりました。各施設のさまざまな取り組みや行事、ふとした日常の1コマ等をご紹介しますお手伝いできればと思っています。

(広報委員 池田佳代)